

# 編集後記

- エンジニアリングレポートは「下水汚泥のガス化、燃料化等についての必要エネルギー」「らせん案内路式ドロップシャフト」についての研究報告です。前者は燃料方式別メーカーアンケートによる比較検討を行い、乾燥・炭化、ガス化、焼却といった処理工程におけるエネルギー等に限定してそのエネルギー消費量、CO<sub>2</sub>排出量についてまとめました。後者は下水管の高落差接合のマンホールに増えているらせん案内路式ドロップシャフトについて、水理模型実験による検証を行い、作成した技術マニュアルについて詳細に解説しました。
- 今回からのシリーズ企画となるワールドワイド下水道は、先進的に海外事業に取り組んでいる各企業にその独自技術や工法などをはじめ、計画または課題解決法などをまとめていただきました。海外の現場の雰囲気や紙上で感じていただくとともに、国際化の著しい下水道界において、その羅針盤の役割を果たせればと思っています。
- 新研究テーマは大阪市・千鳥処理場の沈殿池高速ろ過施設の性能値について、実施設で性能評価を行うとともに洗浄排水固液分離槽の性能を確認するなど本機構と大阪市との共同研究の概要、研究の内容について触れました。

- トピックスでは、広島市の大州雨水貯留池を取り上げました。広島市民球場の新設に合わせ、スタジアムの地下空間に1万5000m<sup>3</sup>の貯留能力を持つ貯留池を作り、浸水対策はもとより雨水を再利用しグラウンドの撒水やせせらぎ水路などに利用するというものです。都市施設を利用した雨水対策は今後期待される下水道界注目の取り組みといえます。
- インプット・アウトプットは日米の上下水道に関する情報交換を目的とした「第5回日米水道水質管理及び下水道技術に関する政府間会議」、ベルリンで開かれたIWA主催の「第5回特別会議」の参加者によるレポートを掲載。世界的な技術競争への参画や上下水道の連携の必要性などが感じられます。
- ユーザーレポートはSPIRIT21で研究開発が進められてきた雨天時高速下水処理システムです。既存の沈殿池や滞水池に設置が可能で、凝集剤を使用せず高いろ過性能を発揮する注目の技術についてまとめました。  
(編集委員一同)

## 表紙の 写真



次世代の新しい技術への期待と本機構の成長を象徴する意味を込めて、子供の写真をシリーズとして紹介しています。写真のお子さんは、本田康秀国土交通省都市・地域整備局下水道部下水道企画課課長補佐の長男和暉（かずき）くん（7歳）と長女の梨紗（りさ）ちゃん（4歳）です。

この写真は、今年の5月に家族で千葉県船橋市にある三番瀬へ潮干狩りに出かけた時のスナップです。太陽が燦々と降り注ぐ干潟で大はしゃぎする二人の笑顔が、この日の収穫の多さを物語っていますね。和暉くんはボウリングやサイクリングが大好きなスポーツマンタイプですが、最近は絵を描くことにもチャレンジ精神を発揮しているそうです。梨紗ちゃんのほうはバレエのレッスンに夢中で、いろんな衣装を着たりアニメの台詞を覚えたりと、女の子らしさが日に日に増してきているとのこと。カメラを構えているご両親の愛情が、太陽に負けないくらい降り注がれているのが伝わってくる一枚です。

題 字 財下水道新技術推進機構会長・中村満義  
(鹿島建設株式会社代表取締役社長、社団法人土木工業会会長)の揮毫によるものです。

## 下水道機構情報

Vol. 3 No. 9  
2009年7月〈夏季号〉

平成21年7月23日発行 発行者 中村満義  
編集者 石川忠男  
企画者 江藤隆

編集委員：中里卓治／神原浩／高瀬行廣／森島嘉浩／  
田之倉誠／齊藤実／御崎善浩

発行所 財団法人 下水道新技術推進機構

〒162-0811 東京都新宿区水道町3-1 水道町ビル7階  
TEL 03(5228)6511 FAX 03(5228)6512